

日本高齢協の理事になりました

平成十六年七月三十一日。今日で七月が終る土曜日でもある。東京の大塚で全国の高齢者の会議があるので、着物を着て朝六時の新幹線で出かけた。仙台駅の東口は昨日新築オープンしたばかり。これですっかり駅裏というイメージはなくなってしまった。発車三分前にあわてて一番安い弁当を買ってしまった。四百円である。席の隣には六十歳台のオッサンがいた。おせわになりますと挨拶をしたが、上野迄一言もしゃべらなかつた。いつも新幹線にのるときは新聞を三紙もって乗る。新聞もまともに見ると二時間はかかる。四百円の弁当は値段の割には内容が豊富で、小さいおかずがコマコマとキレイにならんでいる。おにぎりが二ツはいていた。これにワンカップがあれば千円でおつりがくる。我ひとり、二時間だれにも声かけられず、自分の時間がもてるのがいい。途中宇都宮から一家四人が隣の座席に乗り込んで来た。お父さん、お母さんに、高校生と小学生の娘さん、四人一家でディズニーランドに行くらしい。朝ご飯をたべながら談笑していた。なんとともうらやましい風景である。我が家族も昨年ディズニーランドにいったが、家族旅行、幸五郎この頃わすれていた。ジロジロ見る事も出来ないのだから彼らたちの会話に聞き耳をたてていた。

八時半上野についた。大塚には行った事は無いが、山手線でとげぬき地蔵のある巣鴨のとなりの駅である。駅に降りてあたりをキョロキョロ。チンチン電車が走っているではないか。のんびりしていてもいい風景である。歩いて五分。大きい都営のアパートの後ろに会議をするビルがあった。こういうアパートが荒町にあればいいなあとフト思った。

会議は十時から始まった。この日、四国には台風がきていたが北は北海道から南は沖縄迄約二十人程、全国高齢者協同組合の理事会でした。幸五郎は東北代表として出席しました。全国区故レベルは高い。それぞれ各地の活動状況が報告された。十月長野で全国集会があるという。何人出席できるか聞かれた。幸五郎は、ハイ何人とも即答出来ない、あとで返事するといったら、皆笑ってしまった。いずれにしてもなんでも全国レベル、というレベルは高い、仙台の田舎者、もっと勉強しなくてはとすごく痛感しました。私の隣には大阪のおなごが座っていたが活動が生き生きしている。向かい側には東京の白石女史、元ファッションモデルだけにスタイルがいい。お年よりのファッションショーをやって大成功した話をしていました。会議が終ってから、駅前のつば八で、懇親会をした。隣に白石女史が長いきれいなおみ足を折って並んですわった。今日は徳したね。

八月一日はまつりの日

八月一日。昨日は東京で会議。夜七時仙台に帰って来たばかりで、今日は毘沙門さんのまつりの日が来た。もう嬉しくて寝てられない。朝四時半に起きる。星空コンサートのチラシをリュックにつめて、南小泉の区役所の付近の家にポスティングした。

八時。バイクに乗って野草園をいく。社のスケッチ会の写生会。まつりの集合は、十二時だから十一時過ぎ迄、絵を書いた。出がけに及川酒屋のオヤジさんに絵を書きに行くといったら、あきれていた。幸五郎はまつりの実行委員長である。オレがいないとまつりははじまらない。

十二時。花火がドーンと毘沙門の空にひびいた。幸五郎の役目は、みこしの先頭にたつて、塩をまいて歩くことである。いつものことだが宣伝カーの電池が無い、テープが無いと大騒ぎ、袴の着付けの女性が来ない。今日の天狗さんは息子の洋一が進んで引き受けてくれた。えらい。常に、オヤジに文句ばかりいっているが、イザとなると我が息子。衣装が重くて、暑くて、その上一本歯の下駄が歩きにくいので皆んなに敬遠される。されど、天狗さんがいないとまつりがはじまらない。午後一時やっと全員集合。お寺の若い小坊主がホラ貝を吹いてお神輿に毘沙門さんの魂を入れる。お神酒がくばられる。九十三歳になる味噌屋の佐藤委員長に「今から出発して来ます」とあいさつをする。これが一番大事なことである。年一度、荒町を守ってくれる毘沙門天王が、今、荒町の町内をめぐるため、みこしが行くのである。このことを「みこし渡御」という。この先頭を切るのが、幸五郎の役目である。三宝に塩を山盛りにもって水戸泉のように目いっぱい塩をまいた。今年の夏は晴天つづき。いくらか風はふいているが、汗が流れる。町内の人々が家の前に立って、おみこしをむかえていただいた。途中三ヶ所に冷たいものが出てもてなしていただく。こども稚児行列と別行動で約二時間。午後三時無事毘沙門さんに帰って来た。佐藤重雄長老に報告をして三本締めでしめくくった。

夜はヨサコイの「ざっくばらん」の若いお兄さんが百人あつまつた。ぼんおどりとよさこいおどりと交互

におどった。幸五郎もまじめによさこいをおどったら、腰をひねりすぎてしまった。七十三歳まだまだうごける。

荒町音楽祭でまちおこし

まつりの二日目。まつりの出し物は荒町音楽祭だ。十数年前からびしゃもんさんまつりの出し物の目玉に地元の団体、学校に出演してもらっている。今でこそ、競って出ていただくようになったが、最初は大変でした。荒町小のスクールバンドは「まつりは宗教行事だから」といって毘沙門さんの門の前でやってもらったこともあった。逆にウルスラの吹奏楽団は、顧問の先生を抜きに生徒が自ら私の店に来て、「出たいと」言われ、直前に顧問の先生に挨拶に行った事もありました。ノイエタンツバレイ研究所の春日先生には、ぜひ出ていただきたいと祭りの一ヶ月前に松本君とお願いに行った事もありました。十年前にはSCSミュージカルの梶賀先生にお願いして「びしゃもんさま」という書き下ろしのミュージカルをつくっていただき「びしゃもんさまは荒町のみもり神」という、こどものことばにハット胸をつかれました。毘沙門様の役には、代表の広瀬純さんにつとめていただきました。荒町音楽祭はこのように、地域発見から見つけたイベントである。荒町は音楽にこだわって来たが、よくよく見れば、音楽文化の発信基地になっていたのである。福井文彦さん、東北音楽学校、キリスト教会のパイプオルガン、ティップタップバレエ、ノイエタンツバレエ、SCSミュージカル、佐瀬裕美のピアノ等等、人材が豊富である。昨年荒町小学校、百三十年で壹百万もかけて校旗をつくったが、私は無駄と言って反対した。こんなお金を荒町小の音楽教育にかけべきであった。こんなこともあって私は同窓会副会長を辞任した。お金の援助は出来ないが、この音楽祭を続ける事で荒町地域の文化の発展に寄興したい。皆さんも応援して下さい。学校が良くなれば荒町小目指して転校して来る子供さんがふえる。そのことで、地域が繁栄するのではないかと思います。

七夕仕掛け物で銅賞ゲットする

仕掛け物というコンテスト部門が七夕にある。ご存知無い方が多いと思いますが七夕や動く七夕より、こちらの方が面白い。戦前、幸五郎こどもの時代からあって、むしろこちらの方がもっと力を入れた方がいいと思う。昭和二十三年八月、昭和天皇が荒町を通って一本杉のウルスラ学院のところにお泊りになった時、荒町は今以上の七夕をつくってお迎えしました。この時、幸五郎十七歳、高校二年生。屋根の上で太鼓をたたいて、四谷怪談をやりました。この夜、荒町には五万人の人が、おすなおすなで見物に荒町をおとずれました。夢のような本当な話です。この仕掛け物を向い側で、ジーっと見ていた人がいました。私の妻になる榮子でした。その十年後に結婚しました。

それはさておき、幸五郎にも仕掛け物をつくりたい気持ちがいっぱいある。なんとかして、皆さんをあっといわせて楽しみたいのである。四年前からはじめました。最初は幸五郎が寝たっきり老人になって、孫のほのかがかうちわであおいでいる風景、次は毘沙門様がコントラバスをひいている風景、去年は招き猫のが上下に動くしかけをつくってやっと奨励賞をもらいました。

さて、今年も会議所にやると申し込みました。たった三件しかないそうです。一ヶ月前に近所に住む高校の同級生の加島君に相談しました。彼は私と同じ奇人変人である。自分の帽子や着るものを廃物利用でつくる才能もっている。テーマは荒町頑固親父七人衆でした。文字どうり商店街はこんな人の集まりです。幸五郎を含めて六人のひとには肖像権があるので打診しました。やはり、一人変な人がいました。最初は承諾したのですが後から「オレ頑固でない」といって断って来ました。もうコレで既に頑固な言い方である、あとで訴えられると困るので本名をすこしかえました。コンセプトは出来たが、どうやって動かすか壁に突き当たりました。そんなさ中にお笑い学会の百瀬先生と出会いました。先生は名取高専の先生です。先生のケイタイに電話したら翌日学生が三人見えました。彼らはロボット選手権で優勝したメンバーでした。一週間後、店に回転部をつくって持って来た。加島君にも来てもらっているいろいろ検討した結果、出来上がりました。さあこれで金賞と幸五郎夢をみてしまいました。八月六日朝いよいよ、当日となりました。バック看板を作ってお店の入り口につるしました。「スイッチオン」みごと動き出しました。ところがロープがはずれてしまいます。さあ大変、直ぐ加島君に来てもらい、いろいろやって見ましたがどうしてもはずれます。審査員が十二時半に来る。やっと一人の頑固オヤジだけつけて審査員に見てもらいました。審査員は私の絵の〇先生、ヨーロッパに一緒に行ったYさん、皆ともだちです。審査員の先生方は皆さん笑って、私をひやかしました。ああダメかナーと弱気になってしまいました。

午後四時に審査の発表があります。十分、十五分、二十分とたっても返事が来ません。一万五千元かけた。

費用はムダになるのか、店番をしながら、完全にあきらめていました。四時半店の前に一台の軽自動車とまりました。中から七夕のシャツを着たアンちゃんが降りて来ました。ああ入賞だと直感しました。見事初めて銅賞だ。会議所のアンちゃんに「賞金、いくら」と聞きました。「たしか五万円」といいました。「やーバンザイ五万円ゲットしたぞ」翌日表彰式には妻の榮子に行ってもらいました。幸五郎さんのアイデアすごいとほめられたそうです。

十一月二十七日に向けて幸五郎委員長ガンバル

今年の夏まつり大成功に終わりました。ことしの星空コンサートは自らかってでて、実行委員長になり、見事責任をはたしました。ほっとする間もなく今度は又、又、今年の十一月二十七日(土)に行われる宮城県主催のまちづくりシンポジュームの実行委員長になり、この事業の成功に向けて準備が始まりました。

八年前から、県がお世話している、まちづくり協議会の仙台支部に役員をして三年前から支部長をつとめています。長という肩書きはいいけど悪い事が出来ない(あたりまえだが)その都度、有能な県の職員さんがついているので、なんとか務まっています。まちづくりをやっている団体のまとめ役で年一回、シンポジュームをやってお終いという集まりです。この六月に会議を開いて、今年はどこでやろうかと審議しました。七ヶ浜、松島、塩釜、みなそれぞれことわられました。のこったのが仙台。そして、荒町に白羽の矢がたちました。幸五郎は荒町がいいと思っていましたが、まさか支部長の私から「荒町がいいよ」ともいえないので、じっくり会議の行方を見守っていましたが、いわゆる消去法で、残ったのが荒町になりました。

幸五郎委員長としては、今までにやった事のない、大掛かりに荒町全体を使ったシンポジュームをやります。荒町小の体育館で全体会、浅野知事に基調演説、分科会は市民センター、宮城文化学院、昌伝庵を使って、幸五郎新聞生みの親であり、長崎で大学教授をしている市原実先生にお話をさせていただきたいと計画しています。当日は「えびすこの日」なのでこどもたちがふなを売る。休憩時間に街頭でバス停コンサートを。商店街、町全体が盛り上がるように色とりどりの旗で装飾する。交流会は、皆が一緒になる大きい施設が無いので町内の飲み屋に分散して行く、などなどいずれにしても街全体を使って宮城県下から集まってくる三百人のお客さんをおむかえしたいと、いろいろ作戦をたてます。

どなたでも参加できます。ぜひ応援して下さい。入場は無料、交流会参加のときは三千円となります。お盆はお墓参りと仏壇参り

お盆とお彼岸に幸五郎一家は二台の車に分乗し墓参りに行きます。渋滞をさけて朝五時半に出発し成田町、泉、北山と回って三井アーバンで朝食をとることになっています。

十五日には、姉の所に仏壇を拝みに行こうと思って電話をしたら「お寺に行ったんだから来なくて良い」と言われた。私に似てズバツと言う人だからちょっと頭に来たけど抑えて行って来ました。墓参りと仏壇と両方行くのはしんどいけど皆さんはどうしていますか。